COVID-19　第６報（2020/7/1）　おぐちこどもクリニック　小口弘毅

『コロナ時代の僕ら』：パオロジョルダーノ（すでに有名なイタリアの若い小説家、素粒子物理学者！）を要約しながら、パンデミックの現状をお知らせします。イタリアローマ在住の著者によるエッセイは流行のほんの初期だった２月下旬から３月にかけて新聞に掲載されたものです．『私達が知る限り，これほど短時間でパンデミックとなった始めてのウイルスだ．2 月 29 日現在、すでに世界の感染者数は８万５千人を超えた．この早さは、世界がどれほどグローバル化され、相互に繋がり合っているかを示している．誰もが、予定外の空白の中にいて，日常を突如中断され、同じような生活を強いられている。学校は閉鎖され，空を飛ぶ飛行機は見られなくなり、観光地でさえ人はまばらで静かである。世界中（京都も）に溢れ帰っていた観光客はどこに行ったのだろうか？私は、このパンデミックが“人類の何が問題なのか”が明らかにされるのを見極めたい．それはますます厚く垂れこめる暗雲のごとく水平線上に見えていたが、中国はやはり遠く、誰もがまさかと思っていた。だからコロナの流行が勢い良くここまで達した時，僕らイタリア人は仰天した．最初の頃，イタリア人は誰もが，“大丈夫、後何日かすれば、きっと元の生活に戻れる”と言っていた．コロナウィルスは抗体も無ければ，ワクチンや治療薬も無い人類を不意打ちした．そしてコロナは人間関係に大きなダメージを与えている．多くの孤独をもたらしている。ICU に収容され、一枚のガラス越しに家族と会話する感染者孤独もそうだが（もっと恐ろしいのは死に瀕して親族に看取られる事も無い孤独），もっと一般的に広がっている別の孤独、猜疑に満ちた視線の寂しさ，自由であるはずのイタリア人の誰もが，自宅軟禁の受刑者である。このパンデミックは人々に集団のメンバーとしての自覚を持つように促す．我々の共同体の中には高齢者や慢性疾患を抱えた健康弱者は少なくない．若い人がウィルスに隙を見せれば、ウィルスを健康弱者に密やかに運ぶ事になる．我が身を守る事は他者を守る事に繋がる．この共同体とは、わが町でもなく、イタリア（日本）でさえなく、人類全体である。想像して欲しい。コロナが猛烈な勢いでインド、中南米やアフリカ大陸、あるいは難民キャンプに広がっていったらどうなるか？現代の人間は過去のどの時代よりも広範囲に、そして頻繁に早く移動している．感染しても無症状だと、ミツバチと風が花粉を運ぶように不安とウィルスを運んでいく。地球環境に対する人間の攻撃的破壊的な態度のせいで今度のような新しい病原体に人類が接触する危険性は高まる一方である。多くの動物がどんどん絶滅していく為に、その動物から寄生していた微生物は引っ越しを余儀なくされている．そんな時、ますます繁栄し増えている人類に勝る引っ越し先はあるだろうか？ウィルスは環境破壊が生んだ難民の一部だと言える．これらの連鎖の果てにコロナよりも遥かに恐ろしいウィルスのパンデミックが待っているかもしれない．今の自主隔離の時間は、人類が地球という壊れ易く美しい生態系を壊している張本人である事を反省する機会となるだろう。“まさかの事態“が人類の生活に入り込んでからまだ数ヶ月で世界は変わってしまった．パンデミックにより、見慣れたこの世界を支える骨組みが実はふけば飛んでしまうほど頼りないものである事が白日の元に曝されてしまった』そして 2020 オリンピックイヤーに訪日観光客を 4000 万人台に乗せようと目論んだ政府の当ては外れ，訪日客は 99%減少し、安定していた航空産業も崩壊した．

Youtube のはしごをして，コロナ流行がどのようにして始まったかを検証しました．2019 年 12 月 26 日に武漢で最初の奇妙な肺炎の患者（０号患者）が武漢中央病院に入院した．翌日０号患者の家族２人も肺炎を発症して同じ病院に入院した．12 月 29 日には同病院に新たに４人の同じような症状の肺炎患者が入院し，肺炎患者は７人となった．12 月 30 日にこの病院で働いている若い眼科医 Li Wenliang はネット Wechat に人-人肺炎の outbreak が起きていると警告を仲間内に発信した．しかし 12 月 30 日に、市当局から Li 医師は呼び出された。人心を惑わしたと始末書を書かされ，2020 年 1 月 3 日には身柄を拘束された．その後肺

炎患者は増え続け、治療に当たっていた医療スタッフの感染も確認されていった。1 月 14 日に、武漢市の衛生当局は人-人感染の可能性は低いと報道していたが、密かに感染対策を始めていた.1月18日にはXinhua病院でおよそ 100 人の肺炎患者が確認されていた.しかしこの時点でも武漢市では新年を祝う大規模な宴会が続けられていた．1 月 20 日に漸く，政府の公衆衛生担当の高官である Zhong 医師は人-人感染が起きている事を初めて認めたが、Li 医師が警告を発してからすでに 20 日以上が経過していた． 1 月中旬には、武漢で何らかのウィルス感染が広がっていると世界は感づいていたが、中国政府からの武漢での感染拡大の正式報告は無かった．1 月 14 日の時点でも，WHO は中国政府の”human-to-human transmission”の明らかな証拠は無いという報告を鵜呑みにして世界に発信していた．1 月 23 日に武漢市はついに完全な Lock Down に入った．しかし 1 月だけでおよそ 40 万人の中国人が米国に入国していた（勿論ヨーロッパにも）。しかし 2 月 3 日になっても、WHO のテドロス事務局長は“国際的な旅行や貿易の不必要な制限は行うべきではない”と宣言している．これでは WHO は中国政府の傀儡と言われても仕方が無い．現状は世界の感染者数／死者数は 1055 万人／51 万人、米国 272／13、ブラジル 140/5.9,インド 58/1.7、英国 31/4.3、イタリア 24/3.4 と悲惨である．世界人口を７５億人だとすると 750 人に１人が感染した事になります。今の数字を見たら、パオロジョルダーノはどんなエッセイを書くでしょうか？中国政府の隠蔽により感染爆発に関する情報が世界に届くのが 20 日遅れただけで、世界が大きく変わってしまいました．正月に今年も平安にと祈った私達はどこに向かっていくのでしょうか？

ウィルスの前で，人類はウィルスにすでに感染した人（感染者）とまだ感染していない人（感受性保持者）の２種類に分けられる。仮に人間をビリヤードの球としよう。人類の大部分はコロナに未感染者でビリヤード台の上に沢山並んでいる．そこに感染者である球（０号患者）が猛スピードで突っ込んでくる．この球は２つの球にぶつかり静止する．弾かれた２つの球はやはり２つの球にぶつかり弾き、後はこの衝突が延々と繰り返され、これは一種の連鎖反応である。このように０号患者から始まった感染は、ますます多くの人々にますます早く感染が広がっていく。感染の広がりの速さは、ウィルスの感染力の強さによって決まり、この性質を専門的には R0(アールノート：基本再生産数)で表す。ビリヤードの球の場合、R0 はぴったり 2.0 であり、各感染者が平均２人の未感染者を感染させる事になる．WHO はコロナウィルスの R0 は 2.0~2.5 と推定している（感染力が非常に強いはしかウィルスの R0 は 15 と言われている）。R0 が 1.0 より少しでも大きければ感染は広がり続くが、逆に 1.0 を下回れば、感染拡大は自然に治まっていく．R0 は変化させうる数値であり，人類が感染リスクを抑える為に行動を改めれば、R0 は低下し，臨界値 1.0 を下回り、流行は終息に向かうはずである．R0 を抑止する対策を緩めると R0 は再び上昇し、第２波、第３波が押し寄せてくるかもしれない.ワクチン開発そして出来る限り多くの人々に接種し感受性人口を減らす事が大きな希望の光であるが，有効なワクチンがいつ完成するかは誰も解らない．そして感受性人口の密度をぐっと減らし“まばら”にする必要がある．つまりビリヤードの球と球の間を広げなければならない。